

魅力度向上対策特別委員会記録

1 会議の日時	令和 5 年 2 月 28 日 開 会 午前 10 時 00 分 閉 会 午前 10 時 50 分	
2 会議の場所	議会棟 4 階第 6 委員会室	
3 出席者	委 員	委員長 玉田和浩 副委員長 伊藤秀光 委員 村下貴夫 野村美穂 布俣正也 伊藤英生 澄川寿之 平野恭子 平野祐也 小川祐輝 森益基
	執 行 部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	主査 水谷昭之 主任 脇若知香子	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 提言について 2 その他	

6 議事録（要点筆記）

○玉田和浩委員長

ただいまから、魅力度向上対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、提言について、協議するため開催したものである。

当委員会は、重点調査項目に基づき、テーマを絞り込んだうえで調査検討を行い、当初は令和2年度までの2年間を目途に委員会として一定の提言を行うことを目指してきた。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、視察をはじめとした調査が十分にできない状況にあることを踏まえ、調査期間が当初の2年間から、4年程度に延長されたところ。

本日は、これまでの4年間の調査結果を踏まえ、提言としてとりまとめたと思う。

なお、本会議における委員長報告は、提言の内容を抜粋して行いたいと思う。

それでは、審議に入る。

本日協議いただく提言案については、あらかじめ配付しているが、何か意見はあるか。

○村下貴夫委員

5月8日で新型コロナウイルス感染症の取扱いが2類から5類となるが、本提言はこれを踏まえたものとして受け止めていただきたい。

○丸山観光国際局長

提言について、ポストコロナを見据えたものであると認識している。

○玉田和浩委員長

意見もないようなので、案のとおり提言を決定したいと思う。これに異議はないか。

（「異議なし」の発言あり）

○玉田和浩委員長

異議がないようなので、そのようにする。

なお、今回の提言は、委員会の調査結果に基づくものであることから、本会議における委員長報告については、提言の内容を抜粋して行い、その文案については、正副委員長にご一任いただきたいと思うが、これに異議はないか。

（「異議なし」の発言あり）

○玉田和浩委員長

異議がないようなので、そのようにする。

なお、本日審議いただいた提言については、議会閉会后、知事に対して手交するので承知おき願う。

議題については以上だが、各委員から、当委員会の4年間の活動を振り返って、感想を一言ずつ話していただく。

○森益基委員

馬籠宿を舞台とした「ポケモンGo」の商業的放送がきっかけとなり、人出が少ない2月にも関わらず、2月26日に馬籠宿の観光客数が過去最高となった。こういった話題性のあるコンテンツを積極的に活用していくとよい。

また、飛騨牛に関して、地理的表示（GI）保護制度に登録されたことを踏まえ、販路拡大に注力していきたい。

加えて、先日、関西県人会連合会の新年会に伺った際、2025年開催の大阪・関西万博を見据えた戦略

について話を伺った。県としてもこれを踏まえ、東濃桧などの販路拡大に向けた取組を推進していただきたい。

○小川祐輝委員

地歌舞伎の体験などをはじめとするインバウンド旅行客向けのコンテンツの充実が図られていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により需要が消滅した。ポストコロナにおけるインバウンドの本格回復を見据え、これからの取組に期待したい。

また、コロナ禍でアウトドア志向が強まったため、本県の自然の魅力を発信する機会が増えるとともに、地域の取組が強化された。これらと地歌舞伎などのコンテンツとを組み合わせるなど、さらなる観光誘客につながる取組に期待する。

その他、デジタルマーケティングのさらなる推進に向けて市町村の取組を支援いただきたい。

○平野祐也委員

コロナ禍のため、委員会視察は県内が中心となったことで、本県の観光資源の魅力を改めて認識することができた。この魅力を向上させつつ効果的に情報発信し、地域が儲かる仕組みづくりを進めていただきたい。

また、大河ドラマなどの話題性のあるコンテンツを積極的に活用すべきであり、その場合は単発で終わらせるのではなく、継続的に取り組むよう検討いただきたい。

○平野恭子委員

新型コロナウイルス感染症の影響により多くの事業者が苦しんだ。岐阜圏域には和傘や柿など、魅力的な地域資源が豊富にあるため、引き続き事業者の取組を支援いただきたい。

○澄川寿之委員

新県庁舎について、連日にぎわいをみせていることを踏まえ、岐阜市役所のように土日も開庁してはどうか。新たな観光スポットとしての可能性を秘めていると考える。

○伊藤英生委員

新型コロナウイルス感染症の影響により、サステイナブル・ツーリズムの推進や観光分野におけるDXの促進など、観光振興の方向性が大きく変わった。こうした経験を踏まえて作成した本提言を基に、県の観光振興施策を展開いただきたい。

○布俣正也委員

東濃桧や地歌舞伎など、本県ならではの魅力ある地域資源を積極的に活用しつつPRすることで、世界から選ばれるようになると思う。また、映画などのコンテンツについても時勢を捉えて有効活用していくべき。

水際対策が緩和されたことで、飛騨圏域に外国人旅行客が戻ってきた。コロナ禍前の課題であったオーバーツーリズムへの不安もあるが、ひとまず安心している。今後は、国内外の旅行客が楽しめる工夫を検討し、さらなる旅行客の取り込みに注力いただきたい。

○野村美穂委員

本委員会は関係する分野が多岐に渡り、構成する委員の数が比較的多いことから、多面的な視点で議論を重ねることができた。

また、4年間の活動を通して、情報発信の重要性を再認識できた。今後も引き続き、岐阜県の魅力を県内外に発信していきたい。

○村下貴夫委員

2023年は養老公園が県営になってから100周年という記念の年であり、記念イベントが開催される。引き続き、都市公園の魅力を発信しつつ、イベントの成功に向けた取組に注力いただきたい。

○伊藤秀光副委員長

県外視察を踏まえ、自然、歴史、匠の技などの観光活用の重要性を再確認した。本県ならではの魅力

ある地域資源を活用しつつ、インバウンドの本格回復を見据えた取組に注力いただきたい。

また、メタバースへの注目が高まる中、下呂市が教育や観光への活用に向けた取組を進めている。県においてもぜひ検討を進めていただきたい。

この他、新県庁舎は注目度の高いスポットであるため、土日の開庁を検討いただきたい。

○玉田和浩委員長

それでは、私からも、一言、4年間の活動の総括をさせていただく。委員会での活動を通して、地域の特産や地形、伝統文化などの魅力を発信していく重要性を再認識した。本県の県魚は鮎であり、それを育む「清流」の魅力を守り続けることが大切である。岐阜の鮎が日本で一番美味しいと言ってもらえる日本一の鮎王国づくりに向けた取組を進めていただきたい。

ただ今、これまでの委員会活動の感想を伺ったが、この際、何か意見等はないか。

また、執行部の方、何かないか。

○丸山観光国際局長

本委員会が所管する分野は非常に多岐に渡るため、大変勉強になった。いただいた提言の実現に向けて注力していきたい。

○高木農産物流通課長

行政は縦割りとなりがちだが、本委員会では横串を刺した検討が行われる。このため、様々な側面から質問や意見をいただき、執行部においても勉強になる委員会だった。

○清水都市公園課長

地域資源の核であり、多くの人を訪れる都市公園の魅力を高めることに注力してきたところ。養老公園県営100周年事業を含め、今後もしっかりと魅力の発信と活性化に努めていきたい。

○堀観光国際局副局長

関ヶ原を中心とした戦国・武将観光について、各地域の歴史資源の磨き上げを進めつつ、どのように発信していくのが重要。いただいた提言を今後の施策に生かしていきたい。

○大川文化創造課長

今年4月から当委員会に参加させていただき、「ぎふ清流座」開所当初から様々な意見をいただいた。布侯委員及び小川祐輝委員には実際に地歌舞伎公演に出演され、森益基委員には、地歌舞伎保存会で活動される姿を拝見させていただき、大所高所と現場との双方の視点が非常に重要であることを学ばせていただいた。今後こうしたことを生かし、文化の発信、魅力度向上に励んでいきたい。

○城戸協森林活用推進課長

中間報告では、「ぎふ木遊館」における県産材のPRについて提言をいただき、企画展など機会を捉えて県産材の魅力についてPRしている。

また、アウトドア関係では、岐阜県内の森林は大きな魅力とポテンシャルがあると考えており、林政部としてもこれを生かせるよう、今年1月に立ち上げた「ぎふ森のある暮らし推進協議会」を中心として、森林空間の魅力発信や事業者への支援を行っていく。

○大橋農産園芸課長

農産園芸課は、農産物の生産振興を担当する課であるが、最近は環境に配慮した農業生産が求められている。環境にも配慮し、農産物としての真の魅力も高めていきたい。農政部として、そうした農産物を、国内外に情報発信ができればと考えている。まずはしっかりと土台を築くため、魅力ある農産物づくりに努力していく。

○金武里川振興課長

「清流を守ることは鮎を守ること」を念頭に、長良川及び岐阜県内の鮎資源をどのように増やしたらよいか取り組んできた。今年の1月には、世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会として長良川鮎資源管理・増殖部会を立ち上げ、活動を始めたところ。鮎資源を増やし、岐阜県の魅力をより高めてい

きたいと考えている。

○浦崎県産品流通支援課長

県産品は、自然豊かな本県を象徴する魅力の一つ。来月6日からは東京駅で県産品の販売会を開催し、来年度からは大阪での販売会を本格展開する。観光と同様、県産品のPRについても、ポストコロナを見据えていかに発展させていくかが重要と考えている。

○渡部観光企画課長

地域資源を保全しつつ、観光活用していく「サステイナブル・ツーリズム」を推進し、住んでよし、訪れてよしの観光地域づくりを促進していく。引き続きご指導願いたい。

○玉田和浩委員長

意見も尽きたようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

